



2025年会長研修会報告

11月25日～26日 一泊の会長研修会を実施しました。

今年の研修のテーマは「富士山が噴火したら 降灰に備える」でした。

町田を出発して、山梨県リニア見学センターや山梨県富士山科学研究所に立ち寄り、宿泊先のホテルで本題の噴火についての講義が矢野久（山梨県防災局防災危機管理課火山防災対策室の火山防災監）さんより90分受ける事が出来ました。



<山梨県富士山科学研究所>



<降灰範囲>



<研修会風景>

富士山は世界遺産の風光明媚ではありますが、火山噴火して300年になるが休火山ではない！

噴火する前提で備えなければならない！噴火した場合の時系列としては

1. 噴石 2. 溶岩流 3. 火砕流 4. 火山泥流 5. 土石流 6. 降灰に備えなければならない。

1から5までは、町田市までは影響は無いと思われるが、6の降灰は直径2ミリの灰が5センチ以上の厚さに降り積もる可能性がある。建物の屋根に30センチの灰が積もると建物は崩れる。道路に3センチ積もると通行は不可。車両や電車は当然、徒歩での移動も出来なくなる。火山灰は粒子が固くとがっているため滑って歩けない！湿ると導電性があるため、送電が出来なくなる。湿ると固まるので空調機の管が詰まる。当然、停電になり、浄水設備も停止するので上下水道は止まります。目に入ると角膜が傷つく。呼吸器疾患が悪化する。皮膚に付いたら炎症を起こす等々、人体への影響が多岐にわたる！ライフラインが停止、交通インフラ、建物は崩壊、農作物・水産物も収穫不能、物資の供給も停止されて、対策は…?? 外出が出来なくても生存するための食料は1週間分を備蓄が推奨。たいへんな事態です。

火山噴火の予測は研究を重ねているが現在は出来ていない…

火山灰が傾斜地では川に流れ込み洪水の危険もある 等々

簡単に対策が考え付かないとの感想を持ちました。

南海トラフや首都圏直下型の地震対策が審議されていますが、富士山噴火の災害はそれにも増しての難題です。

富士山に近くはないけど、遠くはない地域で生活している私たちは、町内会活動として何をすればいいのか？ まずは、噴火災害の知識を多くの住民に周知する事から始めようと思います。

とても重要な研修の機会を得られました。



<静岡県富士山世界遺産センター>

(編集長 渡代真知子)